

[年賀状の準備][Windows 11 大型更新の概要]

2023年11月25日 河出 修

[年賀状の準備]

1. 「筆まめ」について

年賀状や暑中見舞い等は、パソコンで作成・印刷するのが当たり前の時代になってきました。今回は「筆まめ」の「Ver.34」を取り上げて年賀状作成の基本的なことを説明します。「筆まめVer.34」は「筆王」「筆ぐるめ」から乗り換えが可能。また、5台までインストールできる。

2. 「筆まめ」の起動

- 「筆まめVer.34」のショートカットをダブル・クリックする。
- 「オープニングメニュー」画面が表示される。→「宛名面を作る」をクリックする。



3. 差出人の登録

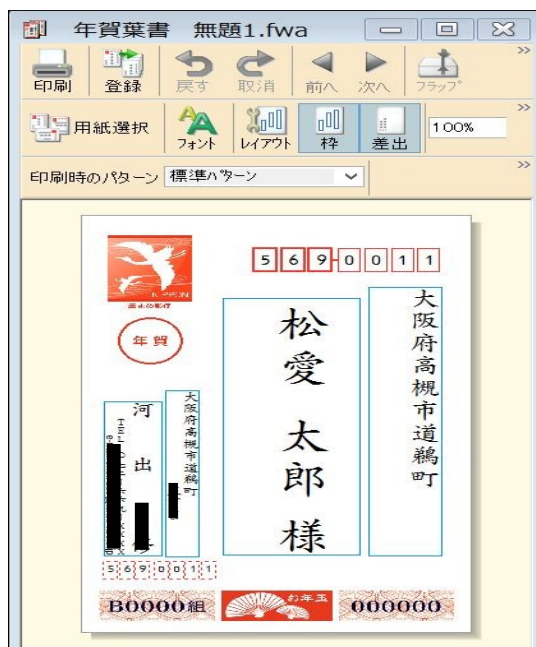
- 「宛名面を作る」タブ → 「差出人を作成・編集する」ボタンを押す。
- 差出人の住所、氏名、電話番号、E-mail等を登録する。
- 差出人は5種類登録でき、その中から選択できる。(個人、夫婦連名等)

4. 宛名の登録

- 「宛名面を作る」タブ → 「新しい住所録を作る」か「保存した住所録を開く」ボタンを押す。
- 「氏名(N)」欄に氏名を入力し、「敬称(K)」を選ぶ。(フリガナは自動付与される。)
- 「〒(Z)」欄に郵便番号を入力すれば、「住所1(1)」に自動変換される。「住所1(1)」の後部、または「住所2(2)」に続きの住所を入力する。

●宛名入力画面

●宛名印刷イメージ



5. 「デザイン面を作る」を開く。

- 「デザイン面を作る」をクリックする。

6. 背景の設定

- 「デザイン面を作る」タブ → 「収録サンプルから開く」ボタンを押す
→ 「筆まめ34カテゴリ」タブを押し → 「01 年賀状」を開く → 「3 背景」を開く
→ 「03年賀背景(縦)」を開くと「背景画」が表示される。 → 「好みの背景」を選択する。

7. 文面ファイルへの文字入力



- 「文字・文章の入力」欄の中の「文章」を選び、入力範囲を設定する。
- フォントや文字サイズ等を設定する。
- 設定した入力範囲に文章を入力する。
- 入力範囲が「イラスト・写真」と重なる場合は「重なり順」→「最前面へ」に設定する。
- 「定型文章」を利用することもできる。
 - 文章が苦手な人も安心。「定型文章」を多数収録。
 - 年賀状に添える一言の文例「定型一言」を250点収録。

8. 文面データへのイラスト、写真入力



- 「画像の貼り付け」欄の中の「イラスト・素材ボックス」を選ぶ。
- 入力するイラストまたは写真を選択し、ダブルクリックで取り込む。(左上に取り込まれる)
- イラスト、写真の位置を調整すれば完了です。
- 「イラスト・写真」文章と重なる場合は「重なり順」→「最背面へ」に設定する。
- デザインツール
 - 「お絵描きペン」「ハンコメーカー」「スタンプ」
 - たくさんの写真をセンスよく演出！「フォトコラージュ」
 - 写真がかんたんに切り抜ける！「フォトカッター」
 - 「クローンブラシ」
 - ・複数写真の「いいところ」を取って別の写真に貼り付け
 - 「QRコードの作成、貼り付け」
- 文字・画像の編集
 - 写真をおしゃれに加工できる！「筆まめフィルタ」
 - 写真をキレイに補正・加工！「筆まめレタッチ」

- 内蔵イラストや写真で満足できない場合は、インターネットのダウンロードサイトを利用可能。
(ただし、ダウンロードサイトには「有料」の場合があるので注意が必要)
- 無料のダウンロードサイトの例 (Canon Creative Park) :ダウンロードするにはIDが必要。
<https://cp.c-ij.com/jp/categories/CAT-ST01-0174/top.html>

9. 文面ファイルの保存

- 「保存」ボタンを押すと、上書き保存される。
- 「ファイル」 → 「名前を付けて保存」 → 「保存場所」と「ファイル名」を指定する。

10. 他形式の住所録ファイルの変換

- 「宛名面を作る」タブ → 「他形式の住所録を開く」ボタンを押す。
- 「筆王」、「筆ぐるめ」の変換や「他の形式」の変換が可能。
 - ・「他の形式」→「Excel」、「Outlook」、「筆自慢」、「宛名職人」、「ウインドウズアドレス帳」、「筆休め」、「楽々をはがき」、「はがきスタジオ」、「筆まめの古い形式」等が変換できる。



・上図の「その他の形式」ボタンを押すと、次画面が表示される。(10種類の変換機能がある)

[Windows 11 大型更新・23H2の概要]

1. 最新のWindows 11の正式名称は「Windows 11 Ver.23H2」です。
 - 「Windows 11 Ver.23H2」は 2023 年 11月1日に配信が開始された。
2. 「Windows 11 Ver.23H2」の主な新機能。

(1) Copilot (コパイロット) in Windows



- 「Edge」の「BingAI」が「Copilot」に変更された。
- ChatGPTなどの大規模言語モデル(LLM)を利用したAIアシスタントで、「チャット」機能で一般的な質問に答えてくれる。
- 「作成」機能で、要望した内容の小説や詩、感想文などを作成してくれる。
- 普通の会話文を入力することでWindowsの操作ができるのが特徴だ。「画面を暗くして」などで、Windows 11のダークモードを有効化できる。
 - ・ダーク/ライトモードの切り替え
 - ・スクリーンショットの撮影
 - ・音量のミュート
 - ・メモ帳などのアプリの起動
 - ・トラブルシューティングツールの起動 等。

(2) 無料版「Teams」

- タスクバーの中央に[チャット]アプリが固定されていたが、これが無料版「Teams」のアイコンに置き換わった。
- 無料版「Teams」は「Microsoft社」のチャットや通話機能、ビデオ会議機能、等を持つソフトです。

(3) フォトアプリ

- フォトアプリで画像編集する際に「背景ぼかし」を利用可能になった。

(4) Snipping Tool

- スクリーンショットで取得した画像から「テキストを抽出」できるようになった。

(5) Clipchamp

- フォトレガシーに含まれる「ビデオエディター」の後継ソフトです。
- 素材を選択するだけで自動的に動画を作成できる機能が、正式に利用可能になった。

(6) エクスプローラーの更新

- エクスプローラーのデザインが変更された。ツールバーの配置なども変更されたが、新たにギャラリービューが追加され、PCに保存されている写真を一覧表示できるようになった。

(7) 「設定」画面のホームの改善

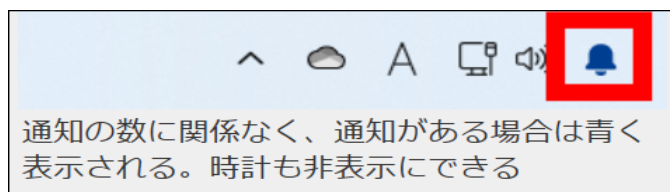
- 「設定」画面の[ホーム]のデザインが変更され、推奨事項などが表示されるようになった
クラウドストレージの使用状況を確認したり、Bluetoothデバイスの設定をしたり、テーマを変更したりすることが簡単にできる。

(8) タスクバー

- タスクバーのボタンのラベル表示方法をカスタマイズできるようになった。

(9) 通知アイコンと日付と時刻の変更

- 通知アイコンが変更され、通知の数ではなく、通知がある場合に青、無い場合にグレーと色分けで表示されるようになった。また、日付と時刻を非表示にすることも可能になった。



(10) コンテンツに基づいて明るさを変更する

- 表示されているコンテンツに応じて画面のコントラストや輝度を最適化して消費電力を節約できる。

(11) Windowsバックアップ

- Windowsの設定やファイルなどをクラウドと同期するWindowsバックアップが搭載された。

「セキュリティ関連」

(12) パスキー

- MicrosoftやGoogleなど、パスキーに対応したサイトの認証情報を保存し、パスワードレスでサインインできるようになった。

(13) フィッシング保護の強化

- Microsoft Defender SmartScreenのフィッシング保護機能が強化された。
疑わしいアプリやサイトにパスワードが入力される場合に警告される範囲が拡大される。

(14) Wi-Fiパスワード表示

- 接続済みのアクセスポイントのパスワードを画面上で確認できるようになった。既知のWi-Fiから表示できる。

★ AI時代のWindowsへ

- 以上、「Windows 11の23H2」の主な新機能を紹介しました。
最大のポイントは「Copilot」が搭載されたことだと思います。
キーボードとマウスによる「UI」から、自然言語による「UI」へと進化する第一歩を体験できるので、ぜひ試してみると良いと思います。

[Windows 10 の大型更新は提供されません]

- 2022年10月に配信が開始された「Windows 10 Ver.22H2」が最終バージョンです。
(2025/10/14サポート終了)
- Windows10でも「Edge」を起動すると「Copilot」が使えるようになりました。